

資料7 事例報告（例）

症例（事例）報告の記載例

○事例（症例）報告に記載する項目は次の7項目です。

1. 患者（対象者）情報

プロフィール（年齢、性別、職業）、傷病名（病歴）、身体状況（身長、体重など）、生活背景

2. 介入までの経過

対象者（患者）への介入（紹介）までの経過を経時的に記載する。

3. 栄養スクリーニング

スクリーニングツールの記載、スクリーニング結果の提示または紹介（多職種からの紹介）理由

4. 栄養アセスメント

栄養アセスメントは、FH「食物/栄養関連の履歴」、AD「身体計測」、BD「生化学データ」、PD「栄養に焦点をあてた身体所見」、CH「既往歴」の5つの項目から問題点を抽出して実施し、栄養に関する問題を正しく導き出す。

5. 栄養診断

栄養診断は、NI「摂取量」、NC「臨床栄養」、NB「行動と生活環境」の3つの項目からなる70種類の国際標準化された栄養診断から適する栄養診断コードNoと用語を選択する。

※栄養診断P（Problem or Nutrition Diagnosis Label）は、E（Etiology：原因や要因）とS（Sign/Symptoms：栄養診断を決定すべき栄養アセスメント上のデータ）により決定する。

初回指導時に、栄養診断の根拠に用いたアセスメントと栄養診断・計画をSOAPで記載する。

栄養診断：NI エネルギー摂取量過剰・・・

S：（主観的データ）

O：（客観的データ）

A： 栄養アセスメント＋栄養診断（PES）での記入

P： Mx)

Rx)

Ex)

6. 栄養介入とモニタリング・再評価（臨床経過）

栄養介入は、栄養診断とその病因に基づいてND「食物・栄養提供」、E「栄養教育」、C「栄養カウンセリング」、RC「栄養ケアの調整」の4つの項目から対象者のニーズに合わせて、栄養摂取、栄養に関連した知識・行動・環境状態などの栄養問題を解決（改善）する。

1) 目標栄養量

2) 栄養介入計画（栄養アセスメントのFH、AD、BD、PDの項目の中から設定する。）

3) 栄養介入の経過

7. 栄養ケアプロセスの総合的評価

※記載上の注意点

・A4用紙3枚（片面印刷）にまとめる。

・本文の基本フォントは、MS明朝体（英数字記号は半角を使用し、MS明朝体またはTimes New Roman）、文字の大きさは、10.5ポイントとする。

・句読点は、日本語は句読点（、）マル（。）、英文は、コンマ（,）とピリオド（.）を使用する。

・検査値や計測値には、必ず単位を入れる。また、記載する場合は、数字と単位の間（単位同士の間）に半角スペースを入れる。

・データは、個人や施設名が特定できないように配慮して記載する。

栄養管理事例報告 (〇〇〇分野)

所属栄養士会 〇〇〇〇 都・道・府(県) 会員番号 △△-△△△△

施設名 □〇△□〇△□〇△ 提出者氏名 〇〇〇〇〇〇

<対象者(患者)情報>

<介入に至るまでの経過(栄養管理開始までの経過)>

<栄養スクリーニングの状況(多職種からの紹介状況も含める)>

<アセスメントと栄養診断>

<p>栄養診断</p>	
<p>S</p>	
<p>O</p>	
<p>A</p>	<p>栄養診断の根拠 (PES)</p>
<p>P</p>	<p>M x) R x) E x)</p>

S : Subjective data (主観的データ), O : Objective data (客観的データ), A : Assessment (評価), P : Plan (計画)
 Mx : Monitoring plan (モニタリング計画), Rx : therapeutic plan (栄養治療計画), Ex : educational plan (栄養教育計画)

栄養管理事例報告 (〇〇〇分野)

提出者氏名 〇〇〇〇〇〇

<栄養介入>

<栄養ケアプロセスの総合的評価>